

GIGA スクール構想について

「GIGA スクール構想」という言葉を耳にしたことはありますか？

「GIGA スクール構想」は、全国の学校で義務教育を受ける児童生徒に1人1台のPC（パソコンまたはタブレット）端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を全国の学校現場で持続的に実現させる構想であり、その目的は子どもたち一人一人の個性に合わせた教育を行えるようにすることです。（GIGA とは Global and Innovation Gateway for All の略。）

今回は、この「GIGA スクール構想」について説明します。

1. なぜ今、整備する必要があるの？

この10数年でスマートフォンやタブレット、パソコン等は、高性能・軽量・コンパクト化が進み、日常生活においても、ICT は欠かせないものとなっています。

学校教育においても、子供たちが新しい時代を生きる力を育てるためには、創造性を育むICT を基盤とした先端技術の活用は必要不可欠となってきました。

一方で、文部科学省によれば、学校のICT 環境の整備は2019年3月現在でPC1台当たりの児童生徒数は平均5.4人程度と留まっており、自治体間の格差も大きいのが現状です。また、経済協力開発機構（OECD）が実施した調査によれば日本は学校の授業におけるICT 機器の利用時間が極端に短く OECD 加盟国の平均を大きく下回っています。

そこで同省は「GIGA スクール構想」を打ち出し、学校のICT 教育の環境整備を2023年までに行う計画でハードやソフト、指導体制の一体的な整備をすることとしましたが、新型コロナウイルス感染拡大による休校措置を受けて計画を前倒し、2021年3月末までに整備を進めることとなりました。



2. 町の整備状況は？

2021年2月までに、9校の小中学校の通信ネットワークやWi-Fi環境の整備を完了しました。また、タブレット端末や教育用ソフトウェア、電子黒板の導入についても3月中には完了する予定です。併せて学校でのICT 利活用を促進するため構想実現に向けた計画策定やICT 教育支援員の派遣、勉強会などを実施しています。



3. タブレット端末を利用して何ができるの？

学習用タブレットを活用するメリットとして以下のような例があります。

- ①子どもたちがタブレットを利用し、問題を解いたら、リアルタイムで答え合わせができるため、習熟状況に応じた個別指導が可能になります。
- ②自発的に知りたい情報を直ぐに調べることができるので、自ら学ぶ力を育てることができます。
- ③過去の学習履歴を記録することができます。

この他、工夫次第ではいろんなメリットがあります。



4. コロナで臨時休業になったら？

感染症発生時における臨時休業や災害時においても学習用タブレットを利用して、インターネットを活用したWEB 授業を実施することも可能になります。（町ではインターネット環境がない家庭に貸し出すルーターも整備しています。）

ICT を有効に活用し学んでもらうためには保護者の皆様のサポートが不可欠です。ご家庭にあるスマートフォンやパソコンをはじめとした端末の適正な利用と、インターネットを活用した情報モラルについても、ご指導をお願いします。

山都町はSDGs「持続可能な開発目標」に取り組みます！

山の都創造課とSDGs

★安心の暮らしを望み、居住地として選ばれる「山の都」を目指します。

数値目標：移住者数 **年間20人** を目指します。

- ・空き家情報の集積（データベース化）、空き家改修・活用への補助など、空き家利活用の仕組みを構築しました。登録者を増やしマッチングを充実させます。
- ・移住の相談窓口として「山の都地域しごとセンター」を開設し、空き家情報や仕事のあっせんなど親身になった体制を整え、移住のサポートを行っています。
- ・結婚相談員を通じて情報交換活動を推進し、町内の独身者に出会いの場を提供しています。

住民一人ひとりができること・・・

- 空き家を所有している場合は、町の「空き家バンク」への登録や、売却・貸し出しを行うなど、可能な限り空き家にならないように所有する家の維持・管理に努めましょう。

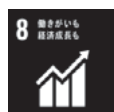


移住相談会の様子

★九州中央自動車道の開通により向上する接続性を活かし、山都町に人の流れを生み、地元客や観光客でにぎわう「山の都」を目指します。

数値目標：物産館等の売上金額 **年間5億6,000万円** (R6) を目指します。(H30:3億4,000万円)

- ・九州中央自動車道の各インターチェンジからの導線とまちづくりに係る総合的な整備方針について、早急に関係団体との検討を行います。
- ・「まち」歩きガイドの養成やフットパスとの連携など、まち歩きのかかけを行い、観光客を商店街に誘導する体制の構築を行っています。

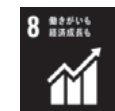


★訪れた人が、ありのままの自然や人、文化に触れ、おのずと応援者・愛好者となる「山の都」を目指します。数値目標：観光入込客数 **年間1,000,000人** を目指します。(H30:508,257人)

- ・観光協会とともに、観光のワンストップ（地域と外部をつなぐ）窓口、情報発信の一元化等の機能を明確化します。また、住民や民間団体、企業等の多様な関係者と連携し、地域の資源を活かした観光地域づくりを推進します。
- ・清和文楽や神楽等の伝統文化や「食」など地域資源を活かした新たな商品造成により、観光客の入り込みを増加させるとともに、山岳プランやフットパスを代表する歩く旅などの商品開発を進め、滞在時間を延ばし、宿泊者の増加につなげます。

住民一人ひとりができること・・・

- 気持ちのいい挨拶など、観光客へのおもてなしの意識を高めましょう。



フットパス地域おもてなしの様子

※令和2年度から広報やまとへ関連するSDGsのアイコンを表示しています。

SDGsの内容や各ゴールの説明について、町ホームページもご覧ください。

山都町×SDGs

検索

